

令和 2 年度地方創生推進交付金事業
(広域連携事業)

効果検証結果報告書

湯前町

地方創生推進交付金

令和2年度（2020年度）交付対象事業経費

10,250千円（湯前町負担分 482千円）

・事業の概要

事業目的

- 地域連携DMOである人吉球磨観光地域づくり協議会が実施主体となり、10市町村や県、観光協会、民間事業者や地元住民等、多様な関係者の合意のもと、人吉球磨地域自体をブランド化し、交流人口と観光消費額を拡大させ、地域経済の活性化を図る。
- 人吉球磨地域の認知度を高め、地域自体をブランド化して競争力のある観光地域づくりを進め、交流人口と観光消費額の拡大による地域経済の活性化を図り、雇用の創出や所得の向上を促進する。また、移住定住支援施策と少子化対策施策を併せて行うことで、若者の地域外への流出を抑制するとともに移住を促進し、社会減や少子化による人口減少に歯止めをかけることを目指す。

対象事業

1 地域の稼ぐ力強化事業

	交付対象事業におけるソフト事業経費内訳	実績額 (千円)
○魅力ある商品の開発	(1)PRツール企画・製作費、広告掲載経費	528
	(2)商品開発助成補助	840
	(3)ツーリズム事業会場設営委託費	701
	(4)アニメイベント企画運営委託費、ツール製作経費	3,001
○国内誘客の促進	(5)プロモーションツールの企画・製作、広告経費	135
○国外誘客の拡大	※新型コロナウイルス感染症の影響により実績なし	0
○市町村の枠を超えたデジタルプロモーション	(6)観光商品やイベント等発信用WEB作成委託費	594
	(7)写真・動画発信用WEB作成委託料	1,228
計		7,027

2 地域の推進体制確立事業

	(1)KPI数値の確保、PDCA運用調査委託費	3,122
	(2)事務所賃借料	107
計		3,229

1+2合計		10,256
--------------	--	---------------

(うち6千円は補助対象外)

人吉球磨観光地域づくり協議会からの報告

KPI① 宿泊者一人当たりの観光消費額

事業開始前	2020 年度目標		2020 年度実績		2021 年度目標
数値	数値	増加分	数値	増加分	増加分
15,554 円	16,254 円	700 円	53,056 円	37,502 円	732 円
結果	達成（サンプル数が少ないことから参考値とする）				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・サンプル数が少ないため、正確な宿泊者一人当たりの観光消費額が把握不可 ・データ算出の根拠となるオンラインアンケートに回答者が滞在した市町村や期間の項目が設定されていなかったことから、市町村別及び月別データの算出不可 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者一人当たりの観光消費額のサンプル数を増加させ、市町村別及び月別のデータを算出するための調査方法を再検討する。その結果を踏まえて、詳細に分析し、より効果的な観光振興事業を実施する。 				

KPI② 延べ宿泊者数

事業開始前	2020 年度目標		2020 年度実績		2021 年度目標
数値	数値	増加分	数値	増加分	増加分
230 千人	236 千人	6 千人	66.6 千人	▲163.4 千人	6 千人
結果	未達成				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響による観光客減少からの回復 ・今後再開予定の宿泊施設も含めた観光客の取込み 				
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症及び令和2年7月豪雨に係る国、県及び管内自治体で実施予定の宿泊等に係る割引事業を活用して地域全体として宿泊者数を増加させる。 				

・KPI③ 外国人延べ宿泊者数

事業開始前	2020 年度目標		2020 年度実績		2021 年度目標
数値	数値	増加分	数値	増加分	増加分
1 3 千人	1 3.4 千人	0.4 千人	0.2 千人	▲1 2.8 千人	0.4 千人
結果	未達成				
課題	・新型コロナウイルス感染症の影響による外国人観光客減少からの回復				
今後の方針	・ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、特に東アジア諸国に向け、文化財、球磨焼酎、アニメ、サイクリングなど当地域特有のテーマや近年増加傾向にあるヴィーガン・ベジタリアンに向けた対応店舗・メニューの拡充など受入態勢づくりに取り組み、外国人観光客の誘客を図る。				

【評価委員会（人吉球磨観光推進協議会）意見】

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症や令和2年7月豪雨の影響により、参考値として捉えることはやむを得ない。
- 目指す姿（ビジョン）の実現に向け、P D C Aサイクルを確実に運用できるデータ収集・分析に努められたい。
 - ・適切なサンプル数の確保
 - ・分析可能となる詳細情報の取得
 - ・上記データを取得するための手法等の検討

湯前町人口ビジョン・総合戦略策定委員会意見

- ・文化財等について住民の関心が低くなってきていると感じるので、地域住民の意識の醸成も進めていただきたい。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症や令和2年7月豪雨災害の影響でサンプル数が少ないことは理解できるが、アンケートを実施する現場の方々がアンケートの重要性を事務局と共有し、より正確なデータを集めることで、実績からP D C Aサイクルを回し目標達成を目指してほしい。
- ・観光消費額の調査と平行し、市町村においては魅力ある商品開発（工夫とアイデア）が重要だと思います。

議会意見

- ・地域全体で見ると、令和2年度に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大や令和2年7月豪雨災害の影響が大きかった理由で、事業実績が目標に対し大幅に下回ったことは理解する。
- ・現時点において、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不明であるため、コロナ禍でも受け入れ可能な観光メニューの開発や、アフターコロナに向けての準備を行うべきではないか。
- ・湯前町内で見ると、他自治体との連携も重要であるが、同様に町内の各種団体・個人との連携を広げることも重要であるため、事業ができないこの時期にこそ、町内の体制づくりに注力すべきではないか。